

熊谷税務署長賞

税金について考える

深谷市立花園中学校 三年 岩井 美都帆

私は今まで、税のことはよく知らず、興味を持ったこともなかった。近くにあることなのに全く知らなかった。そんな税金について、これを機会に、身近な税にはどんなものがあるか、どのように使われているか考えた。

私の家は農家なので、田畑や家の土地の固定資産税を納めている。また、二年前に家を建て替えた。それまでの家は、五十年くらい前に建てられたものだったので、納める税金も少なかった。建て替えたことによって、固定資産税が上がり、取得税も納めた。それを聞いたときは、家にも税金を納めていることを知らなかったので驚いた。

私の父や祖父は、お酒を飲んだり、たばこを吸ったりしている。これにも、酒税やたばこ税がかかっている。他にも、自動車に乗るには、自動車税、自動車を動かすのに必要なガソリンにもガソリン税、消費税など、私の身近なだけでもたくさんの税金を納めていることを知った。私がこうして生活できるのも、家族が税金を納めているからなのだなと感じた。

私達は、税金をただただ納めているだけかと思っていたが、その集まったお金は、私達が毎日使っているものへと、変身していた。普段、学校の登下校に使用したりと、みんなが使う道路、下水道の整備など、私達の安全のためや、生活しやすいように変わっていたのだ。私達が生活していく中で、ほとんどのものが税金で成り立っているのだと思う。もし、税金を納める人がいなければ、道もないし、水道から蛇口をひねるだけでは水も出てこない。税金は、私達が生活していく上で、なくてはならないものなのだなと感じた。

身の回りを見て、税金について考えるだけでもたくさんの税金があったり、税金で作られているものがあり、私達は税金があるからこそ、生活できているのだなと思った。しかし、最近、新潟中越地震があり、それによって、家が崩壊したり、道が盛り上がりたりしてしまっているところを見た。被害者の人は、「食料などの救援物資はたくさんあるが、崩壊した家を直すお金がない。こういう時こそ税金を使ってほしい。」と言っていた。私は、その通りだなと思った。道路が使えなかったり、自分の家がなかったりしたら、困る人はたくさんいると思う。そのような人々に、私達の税金が役立ち、一日でも早く、みんなが生活しやすくなれば良いなと感じた。

そして、私達の納めている税金で、一人一人が笑顔で、なにより、豊かで平和な暮らしができる未来を作り上げていければ良いなと思った。